



共生の時代

●ホームページ <http://www.greencoop.or.jp/>

'10
6月

●発行:グリーンコープ共同体理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



せの お
保健師・劇団「ぼたん座」座長
妹尾 美智子さん

妹 尾さんが座長を務める「ぼたん座」は、在宅保健師の会の有志で7年前に立ち上げた劇団だ。メンバーは80歳を頭に最年少45歳の10人。高齢者を対象に健康づくりや介護予防、生きがいをテーマに自作の健康劇を上演する。出雲弁でユーモアたっぷりに繰り広げられる寸劇に、会場は笑いの渦となる。特に妹尾さんは「80歳のハナさん」は大のはまりをコミカルに紹介し、尿失禁を防ぐ骨盤底筋体操を伝授、下着やパットの紹介もする。

「ハナさんは長年の夢だったハワイ旅行も実現。いくつになつても、チャレンジ精神を持ち続けることが若さの秘訣と説く。

上演会はこれまで50回以上に上り、観客数は延べ1500人を超えた。今では地域に広く知られる存在となり、さ

まざまなところからひつきりなしに上演依頼がくる。

保健師として歩みはじめた頃、「地域の一番弱い人たちの声をきちんと聞いて予防活動をするんだ」と使命感に燃えた妹尾さん。担当する地区へ毎日のように顔を出し、すべての家を回った。何時に起きたり、まとめたデータをもとに「健康を守る会」を開き地域に還していく。「私が多くを触れあいの中で人間的成长をさせてもらった。それはかけられていた。私は親の介護の時期を経てフリーで健診やボランティアに飛び回る。

「あの時の保健師さんですかね?」街中で突然声を掛けられたことがある。「いっぱいお話を聞いてもらつてよかつた

※尿失禁予防劇のシナリオは高知県在宅ヨンにして上演している

●保健師会のオリジナルを出雲弁バージョンにして上演している

地域の潤滑油として生まる保健師

プロフィール

出雲市生まれ。看護学校を経て保健婦専門学校を卒業。保健師として役場に勤める。1992年に夫の両親の会「出雲地区幹事会」(大学生)、猫のピーコ。グリーンコープ生協は夫と長女(島根)組合員(島根)。

*主に現役を退いた看護職の有志のボランティアの会

抱樸館福岡が開所しました!



Contents

第7回酪農生産者交流会

私たち自慢のびん牛乳がずっと続いていくように

2

うちのメーカー・うちの生産者⑦

やまなし自然塾 産直桃

3

ホームレス問題を考える 15

人と人との温もりに支えられて
「抱樸館福岡」始動!

4・5

グリーンコープ地域福祉の新たな一步が「抱樸館」の取り組みとして実現

みんなで利用キャンペーン

みんなの利用で実現したトマト製品の値下げ

6

多重債務問題と生活再生支援のこれから —フランスの先進事例から私たちが学んだこと—

7

空は青く、山は緑、道沿いにはその時々の花が四季の移り変わりを楽しめてくれる。う車を走らせる至福の時間だ。今朝も元気よく起きた。愛犬の散歩に行き、夫と娘、そして私の3人分の弁当を作った。みなそれぞれに職場に向かう。今年、大学の通学電車に揺られながらも、ヤンパスマリフを楽しんでいきましょう。娘は往復4時間の通学電車にかかるが、娘は休みの日も友だちと過ごすことが多くなり、夫婦だけです。

信 送

グリーンコープ生協さが副理事長
福嶋 里美

けや、プラス母で行動するこ
とにあり、家族水入らずで週
ごせる時間を作りたいと
心から思うようになつた。
10年後はどうしているだ
う。まずは元気に毎日を樂し
みながら活動していこう。そ
の先にはきっと私に与えられ
た役目が待つていてだろう。
あまり先のことを心配しない
でケセラセラでやつていてこ
うと思う。日常という奇跡を大
切に、グリーンコープの仲間
とともに。

私たち自慢のびん牛乳が ずっと続いていくように

市で開催され、生産奨励金が贈呈されました。グリーンコープから9単協の組合員22人、酪農生産者や農協関係者ら合わせて44人が集いました。

各单協からの報告



重本 敦子さん



第7回酪農生産者交流会

2010年3月16日

JA菊池農業総合センター パシオン



グリーンコープ生協ひづしま

生産者と交流を重ねることで、深まつたびん牛乳に対する思いを、多くの組合員に伝えていかなければと思いました



角 美知子さん

冒頭、ふくおかの佐藤さんが次のように挨拶しました。「これまでの生産者の苦労を思い起こすと感謝の思いでいっぱいです。n on-GMO飼料導入時の繁殖障害、飼料の高騰など、一つひとつ試練を乗り越えてきました。びん牛乳に詰まっている生産者、メーカー、組合員の思いを多くの組合員に伝え、さらなる利用をすすめたいきましょう」。

続いてn on-GMO牛乳生産者会委員長矢野桂吾さんから「酪農家の近年の厳しい経営状況の中で『生産奨励金』がいかに大きな役割を果たしてくれているか、各生産者はよく分かつています。今後、さらに地域や勉強会へ出かけ多くの組合員さんと交流をし、また視察受け入れなども積極的にいを行なう」という挨拶がありました。

午後からは3班に分かれ、酪農生産者の牛舎を訪ね、右田さんは築33年の牛舎の建て増しをしながら酪農生産者の1人、泗水地区の右田さんは築33年の牛舎の建て増しをしながら酪農を続けています。約65頭いる乳牛は、1頭ごときちゃんと管理され大切に育てられています。

今はヘルパー制度(酪農が冠婚葬祭など牛の世話をできない時に利用できる制度)経験のあるヘルパーが代わりに牛の世話をする)があるので、とても助かります。また、n on-GMO飼料導入時は大変で

今回の交流会では、生産者、組合員の距離がさらに縮まりました。私たち自慢のびん牛乳がずっと続いているという思いを共有し、さらなる絆を深めた有意義な会となりました。

その取り組みも7回目となりました。酪農生産者を取り巻く厳しい状況は昨今のデフレ基調でさらに厳しくなっています。そんな中、年間1億円にも上る生産奨励金はグリーンコープの酪農生産者の大きな支えとなっています。



グリーンコープ生協くまもと

産地視察のようすを参加できぬ組合員にも分かるように紙芝居にして、各地区的取り組みで活用しています(紙芝居の実演がありました)

重野 美樹さん



山本 祥子さん

まず自分たちが学習しようと、委員・理事対象の牛乳学習交流会を開催し、理解を深め、地域組合員総会では積極的なアピールをしました。「みるみる通信」も年4回発行し、利用普及に努めました。

2010年4月に発生し

た宮崎県の「口蹄疫」の影響で、5月17日に予定されていた8回目の酪農生産者交流会は中止となりました。が、今後も生産奨励金を通じて酪農生産者への応援を続けていきます。

グリーンコープ生協みやざき

第7回酪農生産者交流会が熊本県菊池市で開催され、生産奨励金が贈呈されました。グリーンコープから9単協の組合員22人、酪農生産者や農協関係者ら合わせて44人が集いました。

供給状況の報告

グリーンコープから、この間の供給状況に関して、「低迷していたびん牛乳の供給状況ですが、1本12円の値下げと、予約の取り組みでなんとか盛り返しつつある状況です。牛は毎日お乳を出しているので休日はありません。なにより安定した利用が不可欠です。今後も予約を増やしていく取り組みの強化をすすめていきます」と報告がありました。



生産者から飼育に関する説明を聞く組合員。びん牛乳に「生命」を感じる瞬間。かわいい子牛もお出迎え

生産奨励金がスタートして2年

世界的な穀物価格の高騰による飼料価格の高騰や、牛乳の消費の減少などで、日本の酪農生産者は厳しい経営状況に追い込まれています。グリーンコープの生産者も例外ではありませんでした。



生産者に届けた「組合員からのお手紙」の中の1枚

て、「抱樸館福岡」始動!

「抱樸館」の取り組みとして実現

般社団法人

支える会

記念シンポジウム

グリーンコープ
ホームレス支援機構
共同体

一組合員など
系団体他約50人

グリーンコープの各協議会
17法人により「抱樸館を支える会」
の設立総会が開催されました。

設立記念シンポジウムは、厚生労働省の三石博之さんの講演、北九州市立大学教授稻月正さん、福岡市行政の金口浩治さん等による

を支える会

総会

抱樸館を支える会は多くの組合員や市民が賛助会員となって、抱樸館の運営資金を恒常に支えていく善意の仕組みです。まずは抱樸館福岡を支えるために取り組みます。ホームレス者を支えることは、現代社会の中で断ち切られた絆を新たに作ることでもあります。それは、支える人にとっても経済性や権威に縛られない、愛と慈しみに満ちた真に豊かな人



福岡市長 吉田さん

厚労省局長 清水さん

来賓の方々

福岡市長	吉田 宏さん
厚生労働省社会・援護局長	清水 美智夫さん
福岡県福祉労働部長	服部 誠太郎さん
部落解放同盟福岡県連合会執行委員長	松本 龍学さん
衆議院議員	吉田 孝さん
福岡市東区多の津5丁目町内会	水田 恵さん
NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク副理事長	



挨拶する行岡理事長

全国ネットワーク副理事長
長水田さんより「市長の『温
もりのある街』と地域住

役員
社会福祉法人グリーンコープ理事長
グリーンコープ連合会長
(グリーンコープ共同体代表理事)
グリーンコープ生協ふくおか理事長
グリーンコープ生協ふくおか専務理事
(グリーンコープ共同体専務理事)
NPO法人北九州ホームレス支援機構
理事長
(社会福祉法人グリーンコープ副理事長)
グリーンコープやまぐち生協専務理事
グリーンコープ生協くまもと専務理事

「抱樸館」は、仕事・住まい・人の絆を失った人々の自立を支援するためのホームです。それは、グリーンコープの地域福祉運動を力タチにしていく取り組みであります。5月1日には「抱樸館福岡」(第2種社会福祉事業、無料低額宿泊施設)が多くの人見守られ開所しました。4月10日、「抱樸館」を支える仕組みである「抱樸館を支える会」が設立され、設立記念の地域福祉シンポジウム「新しいセーフティネットを考える」が開催されました。開所式、設立総会、シンポジウムのようすを報告します。

増え続ける路上生活者の身を案じて1日も早い開設が求められていた「抱樸館福岡」。一度は予定していた施設が白紙撤回になるなどの困難にも遭遇しました。昨年2月、福岡市東区多の津住民の了解を得て、建設に着工。5月1日、待ちに待った開所式を迎えました。当日は行政関係者、地域住民代表、NPO法人北九州ホームレス支援機構関係者、社会福祉法人グリーンコープ関係者、組合員など約230人が参加し、開所を祝いました。挨拶の一部を紹介します。

開所式では冒頭に、社会福祉法人グリーンコープ理事長行岡さんが主催者を代表して次のような挨拶をしました。

「今から22年前のグリーンコープ誕生時、私たちは安心・安全な商品を売る組織ではなく、母親たちが助けあって食べものを作りあげ、それを分けあう団体でありたいと、活動の基底に『生命』を置いた。その後、介護事業や、子育てる母親たちへのサポートへ踏み出す時も『生命に寄り添う

に立脚した。5年前からの生活再生事業も、そもそもは生協の支払いに困っている組合員に手をさしのべるところからはじまった。そ

に6番目に多い。そうした中で、抱樸館福岡の開設は、何より地域の理解があることがすばらしく、そのことに心から感謝したい。今、ホームレス者は全国で5、

厚労省局長清水さんより「地域福祉へと向かわれているグリーンコープの皆さんのが『思い』と、北九州ホームレス支援機構の皆さんのが『実績』が重なつて抱樸館福岡の開設が実現した。これで、市や県ほか関係者の皆さんの配慮に敬意を表したい。4月26日、総理から『困窮している人々に対する個別、継続的な対策を講じるよう』と通り組みはまことに時宜を得たもの。国として今後もオローアップしていく」と結んだ。

奥田さんは、「入所者の方が自立後、ここがふるさとなるよう願っていたが、今は抱樸館福岡を含めたこの地域がふるさとなる感じている。来年は地域の方とともに花見をしたい。今回の開設は日本のホームレス支援を凌駕する取り組みになつた」と締めくくつた。

5月1日開所式を迎えた



「抱樸館」看板の除幕式も行われた。書は韓国の詩人、思想家である金芝河さんによる

のようなグリーンコープが、今まで悲惨な生活をしている人たちを傍観するわけにはいかない。

生きいくためには自助と公助が必要だが、お互いに助けあうという共助が十分に機能していない

現在、せつかくの公助も生かされていない。公助と共に助がつながることで自助に向かいたい」。

また来賓挨拶として福岡市長吉田さんは、「福岡市のホームレス者は全国で5、

子供の虐待など、それぞれに解決が難しい問題があるがこうした地域の『温もり』が大切な要素になると想う」と述べ、「運営については、行政としても手を携えていきたい」と結んだ。

これまで支援の現場では「ホームレスは出て行け」しかなかった。抱樸館福岡の成果を日本のホームレス支援の成果として広報していく」とい。

田さんは、「昨年2月に突然この話を聞いたが、反対する理由がなかった。心から歓迎したい」と挨拶。抱樸館福岡の裏手の庭には町内会の人々の手で桜の苗木が植えられている。

ホームレス問題を考える
15

人と人との温もりに支えられ

グリーンユープの地域福祉の新たな一步が



非営利徹底型・一

「抱樸館を支

設立総会及び設立記念式典

主催 社会福祉法人グリーンユープ
共同 NPO法人北九州ホームレス支援機構
後援 グリーンユープ共同会議
厚生労働省
参加者 グリーンユープ
約300人・関係者

ハネルティスナッシュミンがありました。行岡良治さんは「将来、これまでよかつたと思える展開をしていきたい」という決意表明でシンポジウムを締めくくりました。

パネルディスカッション

これからのセーフティネットのあり方



左から司会の稻月正さん、パネラーの金口浩治さん(前・福岡市保健福祉局総務部保護課長)、三石博之さん、奥田知志さん

最後のセーフティネットとしての生活保護制度を中心に 新しいセーフティネットを考える

増え続けている生活保護
生活保護を受けていた人の割合が最小だったのは、1995年の0.7%。2010年では、1.43%と2倍。2009年の同月と比較すると1割強増えている。現在も増える傾向にある。4割以上が高齢世帯であり、単身世帯の割合は、全世帯の4分の3を占める。また、働くが職が得られないという人の割合が急速に増えている。しかも就労によつて保護を受ける必要がなくなった人は1995年から減少し、一昨年のリーマンショック以降は一層悪

遅れていた自立支援
生活保護法には「経済的保護」と「自立の助長」が謳われている。しかし、国の自立支援対策は遅れていたのが現状。

新たなセーフティネット
生活保護受給者の就労が極めて困難な現状から、社会的な居場所作りが必要になってきた。釧路市では民間企業が就労体験、NPOはボランティア体験などを実施し、就労に不安を持つ人たちの居場所を提供する取り組みが行われている。行政・企業・NPO・市民の協同が必要だ。

絆の制度化
悪質な貧困ビジネスなどとはならない。着目されたワンストップサービスは、社会福祉協議会や保健所など窓口をハローワークに集中させ、住居や生活費の一時貸付、健康面での相談などトータルに応じる取り組みだ。その後、住居・生活支援アドバイザーをハロ



講師
三石 博之さん
厚生労働省
社会・援護局
保護課長

一ワーカーに設置し、継続した支援ができるようにした。

「抱樸館」設立

間の関係を生み出すものとなると考えます。会場全体にあたたかく見守られる受け化している。

新役員は下記のとおりです。
過・設立趣意書が確認され、定款が採抲されました。

代表理事 行岡 良治
理事 田中 裕子
田原 幸子
東原晃一郎
奥田 知志
監事 工藤 正彦
河添 文彦

た福岡市のホームレス者が、路上からでも生活保護の申請が可能になつたことなどから減少傾向にある。しかし、ホームレス者のための就労自立支援センターへの申請がいを持つ人も多く、多様なコーディネートが求められている。しかし、行政だけでは応えきれない状況だ」と金口さんからの報告。「急激な社会状況の変化

等から、セーフティネットも有効ではなくなっているなど三石さんからの発言もあつた。奥田さんは「生活困窮者の支援のためにには、政府や民間という概念を超えた対策が必要」と「絆の制度化」の着想の有効性が強調された。そうした意見ネットを考えていきたい。

家庭の役割に代わるもの
家庭とは家族の人生(誕生から臨終まで)に関わることを基盤としている。その役割は受け皿的機能(衣食住・介護・教育等)と持続性のある伴走的コーディネート機能の二つある。後者は、家族が病気になれば病院に「つなぐ」良くなれば家庭に「もどる」というような家族と社会資源(学校や介護施設等)との連携

抱樸館福岡の相談員は、昨年秋から取り組みをはじめ50人の野宿者の住居の交換を踏まえ福岡市も着目している。『絆の制度化』は先駆性のある有効な制度」とまとめた。

社会的な責任とは何か
無縁死は年間約3000人、自殺者とほぼ同数だ。こうした状況を「無縁社会の出現」とマスコミは表現する。しかし、社会とは人ととの有機的な繋がりで構成されるもの。言葉を変えれば、他人が私事に関わるシステムだ。無縁社会という表現は、相反する概念を重ねてしまつていて。この背景には、自己責任が強く問われる近年の社会状況にある。何らかの問題を抱えて、「それはあなたの問題だ」とされ、相談すらできなくなる。社会が責任を持つシステムには介護保険や生活保護等がある。社会的責任を明確にし、自己責任論を超えた社会を取り戻さなければならない。自己責任はその上で問われるべきだ。

必要な社会制度としての「絆」、持続性のある伴走的コーディネート

をいう。家庭の崩壊が著しい昨今、家庭に代わる受け皿機能としては、生活保護やハローワークなどを活用することができます。しかし、社会保護の概念にも、従来の困窮の概念の他に経済的・身体的困窮の他に、関係的困窮(単身世帯の急増など)を加える必要がある。関係的困窮に対応する制度が是非必要だ。



長野県・産地の風景



炎天下、熟度を確かめながらの収穫



20kg以上になるコンテナ、重労働だ



トマト加工製品

※2008年、原料加工用トマトの価格が上がったことでトマト製品の価格を値上げしました。その際、パスタ用トマトソースは、値上げを行っておらず、今回この商品のみ値上げしています

組合員の思いを届ける

「生産奨励金」と「援農支援費」は、組合員が産地を訪れる毎年度生産者に手渡している。2009年度は長野県の4つの農協と、2008年度から加わった北海道JAふらのを訪問し、生産奨励金を届けている。

組合員から生産者へ「国内のジュース用（加工用）のトマト加工製品を使い続けよう。グリーンコーポのこだわりのトマト加工製品を使い

中、経済性が成り立たないことから、農作業を担う生産者は高齢化し、後継者も育っていないというのが実情だ。

このような厳しい状況の中、経済性が成り立たないことから、農作業を担う生産者は高齢化し、後継者も育っていないというのが実情だ。

もう一つは、「援農支援費」。国産ジュース用（加工用）トマトは支柱を立てず、地に這わせて育てる。すべて露地栽培であること

取扱組みの成果を生かして値下げを実現

2005年から取り組んできた「生産奨励金」は、組合員の思いから、前年度を約10%も上回る利用に繋がった。その後も組合員の利用が続いている。

今回、組合員の利用が増えたことに伴って、生産者に渡す「生産奨励金」を減らすことなく、これまでの「生産奨励金」を半額にして商品の価格を下げることができた。

国産ジュース用（加工用）トマトの生産を応援するために「生産奨励金」と「援農支援費」を産地と生産者に届けはじめてから4年半。多くの組合員の利用の積み重ねによって、値下げを実現することができました。

国産のジュース用（加工用）トマトを原料としたグリーンコーポのトマト製品の価格がカタログ13号（6月7日週配布）から、値下げになります。



国産ジュース用（加工用）トマトの生産状況

国産ジュース用（加工用）トマトの生産を守るために

「このままでは、国産のトマトを原料とするケチャップやジュース等が手に入らないものから自由化がはじまり、1989年には完全に自由化された。トマト製品の加工メーカーの多くが、安い外国産原料への切り替えを加速させ、国内の国産ジュース用（加工用）トマトの生産農家は大打撃を受けた。1975～80年頃の最盛期には40万トンあった国内の生産量は、2004年には4.7万トンと激減している。

そのため、高齢の生産者には大きな作業となっている。そうしたことも生産の減少に繋がっていることから、「援農支援費」は収穫期に入手を雇う費用を支援することを目的としている。ジュース用（加工用）トマト50kgを生食用として企画し、その価格のうち70円を「援農支援費」として、毎年約170万円を産地に届けている。

トマトの栽培は、厳しい状況です。みなさんのおかげで、私たちも国産トマトで作った商品を安心して利用できます。今後も栽培をお願いします」と感謝と願いが伝えられている。また、組合員の思いを綴った寄せ書きなども届けられている。

産地ごとの生産奨励金

みんなの利用で実現したトマト製品の値下げ



産地	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
長野県	11,421,850	8,676,400	7,942,850	7,838,450
奈良県	225,000	250,000	325,000	375,000
和歌山県	—	186,390	161,802	97,953
北海道	—	—	966,250	1,055,000
合計	11,646,850	9,112,790	9,395,902	9,366,403

※生産奨励金は栽培面積に応じて算出されています。



多重債務問題と生活再生支援のこれから —フランスの先進事例から私たちが学んだこと—



第2部では「グリーンコープの家計指導、生活支援の実践的なノウハウの紹介」と題して、家計表やキャッシュフロー表を映し出しながら、実例を元に相談のようすを再現した。借金が原因で喧嘩をしたため別居中の夫も交えて、家計の再生について話しあうことで家族が再生していくようすを、生活再生相談室の相談員が演じた

フランスでは、多重債務問題への対策として1989年に多重債務に関する法律が施行され、多重債務委員会が全国のフランス銀行支店に設置された。同時に、フランス銀行本店に「金融セクター諮問委員会」が作られた。多重債務委員会が政府へ提言するため、法改正もスピードで行われる。このように国が多重債務問題に取り組む仕組みが確立している。

日本では、改正貸金業法

多重債務問題フランス調査報告会

2010年3月19日／東京都港区

グリーンコープ生協ふくおかは、グリーンコープ生活再生事業の取り組みを広く知らせるために、東京で多重債務問題フランス調査報告会を行った。同時に、第2部として生活再生相談室での相談のようすを実演した。金融庁・厚生労働省・全国司法書士会・弁護士会・大学・保険会社・生協関係者・マスコミなど136人が参加した。

今号では前号に引き続き、多重債務対策のフランスと日本の違いや、今後のグリーンコープ生活再生事業の取り組みを紹介する。



左から佐藤さん、行岡さん、吉見さん、陣内さん、鳥山さん、高橋さん

日本の多重債務政策 日本とフランスの違い

フランスでは、多重債務問題への対策として1989年に多重債務に関する法律が施行され、多重債務委員会が全国のフランス銀行支店に設置された。同時に、フランス銀行本店に「金融セクター諮問委員会」が作られた。多重債務委員会が政府へ提言するため、法改正もスピードで行われる。このように国が多重債務問題に取り組む仕組みが確立している。

日本では、改正貸金業法が2010年6月に完全施行されるものの、それによつてどこからも借りられない人が増えることになり、公的対策はすんでいるとは言えない。セーフティネット貸付に取り組む岩手県消費者信用生協やグリーンコープ生活再生相談室など、行政との連携がすんでいるところはごくわずか。高橋さんは「国は対策をとるべきであるとともに、国民は他人の問題ではなく明日はわが身と思って取り組んでいくことが大事」と述べた。

家庭経済ソーシャルワーカー(CESF)

日本の福祉事務所に当たる「アクションセンター」では、CESFが多重債務者に寄り添い支援をする。お金を返し終えることが最終目的ではなく、支援を通じて多重債務に陥る根本的な問題を認識させ、自信や希望を回復できるようにしている。鳥山さんは「グリーンコープの生活再生の取り組みはこのCESFに近い」と感想を述べた。また、陣内さんは「日本にもこのような国家資格を取り入れて CESFの育成をし、国として多重債務問題に取り組むことが急務だ」と述べた。

訪問日程

訪問日程	訪問先機関
9月17日	労働・社会関係・家庭・連帯・都市関連省(旧来の労働省)社会アクション総局
9月18日	金融セクター諮問委員会(フランス銀行内)
9月21日	多重債務委員会(フランス銀行バスチュー支店)社会労働研究所
9月22日	公共金融教育研究所／スクール・カトリック(NPO)本部 クリジュス(NPO)パリ支部／パリ市アクションセンター

訪問研究員

高橋 伸子さん	生活経済ジャーナリスト、金融庁多重債務者対策本部有識者会議委員
佐藤 順子さん	佛教大学福祉教育開発センター講師、全国クリジット・サラ金問題対策協議会セーフティネット貸付実現全国会議副代表
鳥山 まどかさん	北海道大学教育学部教育学大学院助教
陣内 恒子さん	マネー塾主宰、実践的金銭管理教育研究家
吉見 やよいさん	グリーンコープ家計とくらしの応援ワーカー円縁代表
行岡 みち子さん	グリーンコープ生協ふくおか生活再生相談室長

ふくおかの生活再生相談室は、福岡県の「多重債務者生活再生相談窓口」として、県とも連携して多重債務者の支援に当たっている。熊本県では行政と粘り強く話しあった結果、今年度から連携できるようになり、大分も次年度に向けて準備中。山口県、長崎県ではそこまで至っていない。行岡さんは「フランスでは公的機関でも民間組織でも各所で『連帯』という言葉が使われる。その言葉が人々や社会を動かしていると実感した。日本でも、国や地域社会が共通の理念を持つことで、制度や施策を作りあげていければと思う」と述べた。

組みがスタートするということを大事にしたい」と行岡さん。

現在の社会状況では暮らしを取りまく経済問題は他人事ではない。グリーンコープは、生活再生事業の取り組みを地域に根ざす運動・事業として存在できるように育んでいく。

グリーンコープ生活再生相談室の取り組みは、相談者一人ひとりの家庭環境に合わせた支援を行ってきた。相談者が「これで頑張れる、こ

うすれば道は拓かれる」と確信が持てるようになる。相談室は開設以来、相談者一人ひとりの家庭環境に合わせた支援を行ってきた。相談者が「これで

いた。今後も、多重債務の整理が終わつたから解決ではなく、債務整理後から相談



No.23

海に熱を捨てる原子力発電所

日本の電気の大部分は火力と原子力発電で生み出されています。石油や石炭や天然ガスを燃やしたり、ウランを核分裂させたりして、熱エネルギーを生み出し電気エネルギーに変えています。

原発は、熱エネルギーの三分の一だけしか電気エネルギーに転換できず、残りの三分の二は、廃熱として環境に捨てられています。廃熱は「温排水」として海に捨てられています。海水は、冷却水として発電所の取水口から取り込まれ、発電所内で廃熱を受け取って温度が上昇し、「温排水」となって放水口から排出されます。海にもどされる時の温度は取り入れ口より7°C高くなっています。周辺の海域では長い間保たれてきた自然環境のバランスが崩れることになります。また、多くの稚魚や微生物が死滅または衰弱させられてしまうのです。

大きくて強い生物も、子どもの時期はみんな小さくて弱い。そしてかわいい。そんな海の生き物の生命まで脅かす原発は必要ありません。

出典:「九電と原発」 南方新社 中野行男 佐藤正典 橋爪健郎

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿募集中

私の好きなグリーンコープ商品

- 400字程度
- 〆切毎月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36
博多ビル7F
グリーンコープ
コミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部宛
FAX 092-481-7876
メールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

言・い・た・い

いつも歩行器から脱走する私。今日はおととやか?に座つてます。
グリーンコープ生協くまもと 牧 真由美



とつておきの一枚



左から江藤理映子さん、大賀栄利子さん、古賀裕子さん、松下亜古さん、平河しのぶさん

大賀さんが編集を担当している
クックルー通信21号

~チャレンジとともに~ クックルー・ステップ



福岡市内に障がい児とその親たちの活動の場「チャレンジ・kids(障がい児)の会NPO法人クックルー・ステップ」(以下クックルー・ステップ)があります。共に学びあえるように障がいを限定しない活動が注目されています。

理事長の古賀裕子さん(グリーンコーポ生協ふくおか組合員)、副理事長の松下亜古さんはじめ役員に活動のようすを聞きました。

いま地域を考える

No.202

社会の中に障がい者とその家族の居場所をつくりたい

「できる」と「から」 広がる活動



クックルー通信は年4回
1000部発行。会員以外
にも、学校、療育施設、病
院等に配布している。通信

車いす&バギー用レインコート スレント

2010年ふくおかを元気にする
共助社会づくり活動表彰「協
働部門賞」受賞

今から6年前、福岡市西部療育センターの「はと組」に通園する障がい児の母親たちが、「同じように子育てに不安を抱え、悩んでいる人たちがいるのではないか?自分たちに何かできないうだろうかと考え、自分の声を通信にしました」。松下さんは当時を振り返る。通信名は「はと組」に因んで鳩の鳴き声から「クックルー通信」。市内の療育施設にも配った。それを読んで共感した他の施設の保護者も加わり、2005年、「歩、一步、挑戦しながらずくらー・ステップ」を立ち上げ、活動を開始した。

「チャレンジ」とは「障がいを持つ人」を表す言葉として、「ハンディキャップ」に代わって用いられるようになってきている。「神から挑戦」という使命や課題、あるいはチャンスを与えた人」という意味を持つ。

活動の先にある大きな夢

活動では、障がい者もそうでない人も、子どもから大人まで一緒に心と体で生の音楽や手話歌を楽しんでもらうバリアフリー・コンサートを行っている。役員のほとんどが音楽ヘルパーに参加を募り、練習を指導している。去年のクリスマスに発表会を行うなど、幅広く活動している。

今年の4月からは雨の日の必需要品「スレント」の販売を開始した。「車いす用レインカバーってないんでですよ」と話す古賀さん。雨の日は、家から通園のバス停周辺まで車を使っていた

が、車からバス停まで車いすを押して移動する際に子どもが濡れてしまうことに困っていた。濡れずに車いすごと簡単に子どもを乗せ降ろしきれないかと頭を捻らせ、いい案が思い浮かんだ。そこで、クックルー・ステップの賛助会員で福祉車両を扱うトヨタハートプラスが、車両にそのアイデアと雨の日の困った経験を伝え、スレントの共同開発が実現した。

クックルー・ステップが今年6月に出版する「君のポケット」には、障がいを持つ子どもたちと、その家族の応援情報、障がいや病気、保護者の想いなど、これまでの活動や、これから夢が掲載される。それがより多くの人々の目に触れることが、少しでも理解が広がればと願っている。

放射能汚染測定結果報告(198)

検体名	产地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ 原木生しいたけ	福岡県	ND	ND	ND
※ 原木生しいたけ	熊本県	ND	ND	ND
※ 原木生しいたけ	宮崎県	ND	ND	ND
ほだ木	福岡県	ND	ND	ND

古賀さんが描いた
「チャレンジ広場」

今年の4月からは雨の日の必需要品「スレント」の販売を開始した。「車いす用レインカバーってないんでですよ」と話す古賀さん。雨の日は、家から通園のバス停周辺まで車を使っていた

夢は、障がい児とその親たちの居場所「チャレンジ広場」をつくることだ。「身近に障がいのことと知ってもらえる憩いの場。親たちもここで働いて社会に関わる。地域との交流を重ね、

活動の原点は 母親の強い思い



平河さんは「わが子を持つ命の尊さや、障がいについて、命の尊さや、障がいを学びました。支えあいながらも協賛している

これまでの活動にグリーンコードの福祉活動組合員基金の助成を5回受けた。本の出版に

歩、また一步と確実に近づいていく。

母親のごく自然な姿勢が人々の心を窺き動かし、活動は大きく広がってきた。一人、また一人と思いがどんどん増えることで、クックルー・ステップは夢に一歩、また一步と確実に近づいていく。

2010年4月の組合員数 403385人

リユースリサイクルデータ 2010年3月分

牛乳びん	リユースびん
回収本数 793,044本 回収率 96.8% (2月14日～3月13日回収分)	回収本数 168,950本 回収率 59.8%
トレー	モウルドパック
回収重量 11,189kg 回収率 56.3%	回収重量 36,230kg 回収率 114.3%



2010年3月